

東九州自動車道の開通に伴う物流拠点化について

議員 平成27年度に東九州自動車道が宮崎まで開通すれば、小倉東インターチェンジの周辺などは一大物流拠点となる可能性がある。物流拠点化に向けた本市の取り組みについて伺う。

市長 物流拠点を都市を目指している。本市の重要な都市戦略の一つと考えている。

東九州自動車道が宮崎市まで開通すれば、東九州・西九州・本州の3方向への高速道路の結節点として本市の拠点性は一層高まることになる。また、港湾・空港との連携によって広域集荷の可能性も高まるなど、本市の物流拠点都市としての潜在能力が高まり、産業競争力の強化につながることを期待している。

障害者就労施設の物品の需要拡大について

議員 障害者就労施設でつくられた物品の売り上げや販路の拡大が思うように進まないとの声を聞く。施設の物品やサービスの幅広い購入・活用を進めるため、物品などを一堂に集めた商談会を開催してはどうか。

市長 本市では、障害者就労施設の物品・サービスについて調達方針を定め公表するとともに、庁内各部署への調達推進の働きかけを行っている。また、今年9月からは、障害者就労施設に対して販売・流通ノウハウに関する研修会の開催やアドバイザー、商品開発の支援などに取り組んでいる。

いる。

今年10月に福岡県が開催した商談会では、県内47施設の物品やサービスなどが来場者から高い評価を受け、本市から参加した施設からは、民間企業や団体との貴重な意見交換の機会が得られ、新たな販路を開拓することができたなどの成果があったと聞いている。商談会の開催は、障害者就労施設の物品などの需要拡大に有効な手段であると考えており、本市で開催することができないか検討したい。

北九州マラソンについて

議員 市制50周年記念事業のフィナーレとして行われる北九州マラソンについて、その準備状況と市民に向けたアピールを伺う。

市長 北九州マラソンのランナーには定員を上回る応募があり、大会を支えるボランティアの申し込みも目標を大きく上回った。安全対策面では、警察などの関係機関と、警備体制やランナー救護所の設置などについて協議が調っており、現在防犯対策について協議中である。

また、交通規制の影響を大きく受ける沿道の校区自治連合会や事業所などを訪問し、理解と協力を求めている。さらに、ランナーに本市の温かさや魅力を感じてもらえるよう市民参加型の応援イベントも実施する予定である。安全でもてなしの心あふれる魅力的なマラソン大会とするためには、市民の協力が不可欠である。北九州マラソンは、ランナーだけでなく、手伝う人、応援する人、すべてが参加者であり主役である。市民一丸となって大会を盛り上げ、市制50周年のフィナーレを飾りたい。



消防点検のあり方について

議員 過去の火災を教訓に、各種施設に対する火災予防対策を実施すべきと考えますが、どのような計画を立てるのか、どのような指導を行った施設等への点検後の対応について尋ねる。

消防局長 本市では、消防用設備等の設置が必要な市内すべての防火対象物に対し、概ね3年に一度指導が行き渡るよう、年度ごとに基本計画を定めて点検を実施している。

特に近年は、全国で高齢者施設での火災で死者が発生したり、市内で市場・商店街火災が頻発しており、これまでの教訓を踏まえた基本計画を定め、火災の未然防止を図っている。

点検の実施においては、指導中心から、命令・告発を見据えた点検へ転換を図り、違反是正の徹底に努めている。また、点検後の対応としては、関係者に対する継続的な指導を実施し、悪質なものは、勧告、警告、命令等、段階的に必要な措置を行い、強力に指導している。

今後、より効果的な点検基本計画を策定し、実効性のあるきめ細かい指導と事後対応の徹底に努めたい。

小・中学生の自転車マナーの向上について

議員 道路交通法の改正を契機に、学校での自転車教室の回数を増やし、より実効性のあるものにするなど、小・中学生の自転車マナーの向上を図るべきではないか。

教育長 自転車に関する交通安全教育については、小学校体育科、中学校保健体育科の授業の中で、交通事故の現状と原因、交通事故の防止などについて学習し、交通安全に関する知識や判断力を身につけるようにしている。また、中学校では、年度始めや交通

安全運動にあわせて交通安全指導を全校で実施しており、とりわけ自転車通学を許可している7校では、ヘルメットの着用や警察署による自転車運転免許講習会を行っている。道路交通法の改正内容については、県警からの依頼を受けて、児童生徒に指導するように学校に周知した。教育委員会としても、自転車の交通安全については社会全体で取り組む重要な課題であり、今後とも警察や関係局と連携しながら、学習機会や指導内容の充実を図ってきたい。



共同住宅の共用部分のバリアフリー化について

議員 本市では高齢者や障害者の住宅のバリアフリー化を促進する事業を行っているが、共同住宅の共用部分については事業の対象外となっている。

共用部分のバリアフリー化が進めば、多くの世代に良好な住環境が創出されることが考えられるが、見解を尋ねる。

建築部長 共同住宅の共用部分のバリアフリー化は、「ハートビル法」に基づいて制定された旧条例によって、平成10年4月から義務付けられている。

旧条例制定以前に建築された共同住宅の中には、バリアフリー化されていないものもあるが、その改修工事は基本的に、分譲であれば各管理組合、賃貸であれば各所有者の責任において実施するものと考えている。

しかし、他都市では共用部分の助成を開始している例もあり、本市においても、他都市の助成制度やその活用状況、課題などの情報収集をしつつ、研究してきたい。



成人祭について

議員 スペースワールドで開催してきた成人祭について、どのように総括しているのか。また、今後の「成人の日」の式典のあり方について、見解を尋ねる。

子ども家庭局長 本市成人祭は、平成10年からスペースワールドで開催してきた。各区で開催していた平成9年の参加率67%に対し、80%程度で推移しており、一定の評価を得ている。しかし、式典会場の収容人員が少ないこと、雨をしのぐ場所が少ないことなどの課題があったため、今年度は、メディアドームで開催することとした。また、アトラクションについては新成人の委員が企画実施するものの、式典については、市が主導し、厳粛なものとなるよう検討している。今後は、「大人になったことへの自覚を促すとともに、自ら生き抜くこととする青年を祝い励ます」という「成人の日」の趣旨を踏まえた式典にしていくことや、一生の思い出となるプログラムを企画することも必要と考えており、よりよい式典になるよう努めたい。

若松競艇場の改修事業について

議員 補正予算案に、若松競艇場の東スタンド棟改修事業の費用が計上されている。市民、区民に開かれた身近な競艇場にするためにも、改修事業にあわせて、市民が利用できるホールを設置できないか。

産業経済局長 若松競艇場の東スタンド棟は、昭和56年に竣工し、32年経過したが、現在の耐震基準を満たしておらず、耐震補強を行う必要がある。改修工事にあたっては、耐震補強のほか、老朽化している電気・空調設備などを更新するとともに、魅力ある施設づくりも考慮した改修を行う。あわせて、地域に親しまれる競艇場として、市民が利用できる施設を設置できないか検討することとしている。

若松競艇場は、開設以降、競艇事業の収益金の一部を一般会計に繰り出すなど、市財政に大きく貢献しており、今後も安定した運営を見込んでいる。これも地域の住民の協力あってのものである。感謝申し上げるとともに、引き続き競艇事業の推進に理解と協力をいただきたいと考えている。



若松競艇場